

CHAPTER. 1 はじめに

■高校生の集い「まなびば」とは？

高校生の年代は、子供から大人へと成長していく過渡期であり、人格形成の上で非常に大切な時期と言えます。学生担当委員会では、信仰に目覚め、別席を運ぶ時期を迎える高校生たちに、彼らの生活地域において、同年代の仲間とのつながりを深め、お道の教えにふれる場を提供していきたいとの思いから、各地域において高校生の集い「まなびば」の開催を提唱しています。

若者は仲間同士のつながりの中から多くのことを学び取ります。大人からなかなか伝わらないことも、互いに影響し合い刺激を与え合うことで伝わり、掴みとるといことがあります。彼らの信仰心を育む上において、お道について語り合える仲間が身近にいることは、大変重要なことです。

「まなびば」では、お道の教えにふれる場を提供するとともに、信仰をもつ仲間との出会いの場を提供し、互いが親睦を深め、地域において信仰ある素晴らしい友人関係が得られることも目指しています。

■教区オリジナルプログラムについて

開催場所や時期に合わせて、参加者に適したプログラムを企画することで、更に充実した「まなびば」を開催することができます。

ただし、新しいエクササイズを開発し、それを行う時はプログラムの企画段階で必ず試験的に実施(トライアル)し、場合によっては改良・修正していただくかねばなりません。

また、スタッフに対する事前研修会でも、より入念な準備が必要となります。

■『開催のてびき』について

『開催のてびき』には高校生の集い「まなびば」の開催にあたって、開催のねらいや実施要項、事前研修会要項、おはなしガイドライン、おてふりガイドラインなどを記載しております。事前研修会を通して開催のねらいなどの周知徹底をお願いいたします。

「まなびば」を通して、地域における高校生の育成の上に実をあげるには、私たちスタッフが前もって準備を整え、高校生たちに「何をどう伝えられるか」事前の研修を行い、開催の趣旨・プログラムのねらい等を十分に把握し、いかにスタッフ全員の共通認識として本番に臨めるかが大きなポイントであると考えます。

■『まなびばプログラムガイドブック』について

令和2年度 まなびばプログラムを実施する教区は、『令和2年度 まなびばプログラムガイドブック』（5月25日配布）をご活用ください。

各教区とも「まなびば」のプログラムを円滑に進めるため、また、一層の内容の充実を期す上から、本番当日のスタッフ全員を対象として、「事前研修会」の実施をお願いします。

■スタッフの方へ

高校生の集い「まなびば」は、参加者にお道の教え・教祖の御心を学んでもらう、にをいがけ・おたすけの場です。スタッフをおつとめいただく方は、「おたすけ人」の姿勢を忘れず、積極的に高校生と接していただくようお願いいたします。

◇まず、信仰者としての自覚を

スタッフをつとめるに当たって何よりも大切なことは、自らが道の信仰者としての自覚をしっかりと持って、事に臨むということです。

プログラムの中で講師やトレーナーをつとめていただく方も含めて、我々は「学生を育成するプロ」ではありません。常に低くやさしい心で、一人ひとりの学生にひたすら関心と愛情を持って接していくことが大切です。

そうすることで、結果的に自分自身の成長も見せていただけます。学生層の育成を「与えられた用事」としてこなしていくのではなく、「にをいがけ・おたすけ」ととらえて行動していくことが、私たち育成者にとって最も大切な姿勢であります。

◇「やさしい心」を忘れない

スタッフをつとめる前に、まず自分自身の心が固くなり、柔軟性を失ってはいないかチェックしてみてください。固まっている心では、人に対する「やさしさ」が表面に現れにくくなり、信頼感も生み出しにくくなります。

教祖は「やさしい心になりなされや。人を助けなされや。癖、性分を取りなされや。」とお教え下さいました。(稿本天理教教祖伝逸話篇 123 話)

心が老化してくると、聴いたり待ったりすることができなくなり、「何と言って説得しようか」、「ちゃんと言い聞かせなくては」と、自分ではなく相手の癖・性分を取ることに意識が集中してしまうようです。

おたすけには「やさしい心になる」ことが必要不可欠です。スタッフが素直なやさしい心をもって高校生と接することができれば、たとえプログラムが円滑に進められないことがあっても、結果は良い方向へ向いていくのではないのでしょうか。

■班構成について

6名前後の高校生に、2人のトレーナーが加わって一つの班とし、その班が二つ以上あることを想定しています。

■全体司会について

トレーナーとは別に全体司会をおくことにより、トレーナーの負担を軽減します。また、全体説明・全体発表の場を設けることにより、全参加者がお互いの意見を共有し合えたり、グループ間の対抗意識からグループの凝集性を高めることとなり、グループタイムに取り組む動機付けになります。

■トレーナー2人制について

それぞれの役割は、グループタイムの進行などで主務的な役割を担うメイントレーナーとそれを補佐するサブトレーナーとし、事前に役割分担を決めておきます。

◇2人制による主な利点

- ①気付かない部分を補い合いながら進めていくことができます。
 - ・グループタイム終了後や休憩時間でグループの状態、メンバーの様子などについて、互いの意見や情報を交換できます。
- ②トレーナーの育成につながる。
 - ・事前研修会や育成に役立つ研修会を受講しても、多くの教区では実際にトレーナーを経験する場の少ないことが現状としてあげられます。経験の少ないスタッフが経験豊富なトレーナーのもとで、実践の場を持つことが人材の育成にもつながります。

◇男女ペアによる利点

- ①「まなびば」には当然のことながら男女の参加者がいます。グループタイム中はもちろん、生活時間においても男女それぞれの視点からメンバーを観察し、関わるすることができます。
- ②女子トレーナーがいると特に女子参加者の体調面などについての世話取りがなされやすくなります。
- ③教区学生担当委員会での女子スタッフの育成に役立ちます。

- 「まなびば」開催までの流れ -

「まなびば」実施要項発表

※12月例会配布

本部まなびば研修会
4月開催

教区事前研修会

高校生の集い
「まなびば in○○○」開催

- ご提出いただく書類 -

実施会場予定表の提出

※12月例会配布 2月25日必着

教区事前研修会実施計画書の提出①

本開催2ヶ月前まで

※派遣の有無に関わらず、実施2ヶ月前まで

※事前に学生担当委員会事務局と相談の上、

希望する教区へ本部から委員を派遣します

「まなびば」実施計画書の提出

※例会にてまなびば物品をお渡しします

教区事前研修会実施報告書の提出②

※実施後、1ヶ月以内にご提出ください。

※①②と助成金申請書の提出を受け、年1回に限り

助成

「まなびば」実施報告書の提出

※「参加者カード」、「アンケート」と共に開催後、

1ヶ月以内にご提出ください

※本開催助成金は、収支がマイナスとなった場合のみ助成（上限6万円）を申請できます。

実施報告書・参加カード・アンケートに助成金申請書を添えてご提出ください。

※上記、提出書類の書式はTSA websiteよりダウンロードできます。

CHAPTER. 2 実施要項

1. 主 催 教区学生担当委員会

2. 名 称 高校生の集い『まなびば in ○○』
(○○は開催する地名など)

3. 対 象 教区管内高校生

4. ね ら い 人格形成の上で大切な時期にある高校生たちが、彼らの生活地域において、同世代の仲間とのつながりを深めながら、お道の教えにふれる場を与える。

5. 内 容

- ・教区でテーマを設定し、一泊二日のプログラムを実施してください。但し、おつとめ、おはなし、グループワークは必ず組み込んでください。
- ・本部から提示したプログラムを参考に実施しても構いません。尚、5月例会でプログラムガイドブックを配付します。

6. 開催時期

- ・定期試験など高校生の予定を十分に考慮して、各教区で日程を決定してください。
- ・各会との連携、日程調整を行ってください。

7. 事前研修会

- ・本開催時のスタッフを対象にした事前研修会を必ず開催してください。
- ・「開催のてびき」を参照し、開催の2ヶ月前までに「事前研修会実施計画書」を提出してください。
- ・本部から提示したプログラムを行う場合は、本部研修会を受講したスタッフ、もしくは本部から派遣したスタッフが事前研修会のトレーナーを務めるようにしてください。

本部研修会日程 4月26日～27日

本部からのスタッフ派遣

本部から委員1名の他に、トレーナーが必要な場合はスタッフ若干名を派遣します。
「事前研修会実施計画書」の派遣を希望する欄に○を付けてください。

8. 提出書類

- ・「実施会場予定表」 … 2月25日必着
- ・「事前研修会実施計画書」 … 派遣の有無に拘らず、事前研修会開催2ヶ月前まで
- ・「事前研修会実施報告書」 … 事前研修会開催後速やかに
- ・「実施計画書」 … 本開催2ヶ月前まで
 実施計画書の提出を受けて、参加者カード・アンケート・参加記念品等を配付します。
 また、広報を図る上で大変重要な資料となりますので、確実に記入の上、ご提出ください。
- ・「実施報告書」「参加者カード」「アンケート」 … 3種揃えて本開催後速やかに

9. 助成金申請

・事前研修会

年1回に限り開催助成金（2万円）を申請できます。所定の申請書をご提出ください。受理後（毎月10日締め）の例会日にお渡しします。

・本開催

本開催助成金は、収支がマイナスとなった場合のみ助成（上限6万円）を申請できます。実施報告書・参加者カード・アンケートに申請書を添えてご提出ください。受理後（毎月10日締め）の例会日にお渡しします。

※会場ごとに助成金を申請できます。複数教区合同開催の場合も会場ごとに助成となります。

※内容が「まなびば」本来の目的から逸脱している場合は助成しかねますのでご了承ください。

10. 動 員

- ・教区管内のとりわけ教会長や布教所長の子女へ向けて、直接声を掛けるなど、積極的な動員をお願いします。
- ・毎年4月、一れつ会新扶育生に対しての「扶育決定懇談会」が各教区において行われています。
 その場へ教区学生担当委員が同席し、「まなびば」の積極的勧誘や学生会活動の案内をしていただくようお願いします。また、その懇談会参加者名簿をしっかりと把握して、開催日までに更なる声かけをお願いします。
- ・行事の企画運営に学生に入ってもらうなどして、学生の動員力を活用できるよう、働きかけをお願いします。

11. 広 報

- ・学生担当委員会のウェブサイト『TSA website』（<https://tsa.tenrikyo.or.jp>）にて「まなびば」の紹介ページを設けています。各教区開催予定を掲載したり、写真入りで「まなびば」を紹介しています。
- ・1月25日より、チラシを希望数配付します。裏面に開催要項を印刷し、ご活用ください。

CHAPTER. 3 教区事前研修会実施要項

対 象 … 「まなびば」本番当日のスタッフ。特にトレーナーを務める方。

研修内容 … 教区事前研修会のプログラムについては本開催のプログラムに準じて、できるだけ一泊二日で開催してください。開催期間、プログラム内容など不明な点がございましたら、学生担当委員会事務局までご相談ください。

開催要件 …

- ・ 解説、実習に6時間程度とれること。
- ・ 参加人数が6名以上であること（実習に必要な人数です）。
- ・ 本開催時に講師・トレーナーを務める方が必ず受講していること。

提出書類 … 以下の書類を学生担当委員会事務局に提出してください。

- ・ 「事前研修会実施計画書」（実施2ヶ月前まで）
- ・ 「事前研修会実施報告書」（教区事前研修会終了後速やかに）

教 材 … 本部から提示したプログラムに準じて開催する場合は、『まなびばプログラムガイドブック』を教区で必要分コピーして、教材としてお使いください。

助成金申請 … 「事前研修会実施計画書」、「事前研修会実施報告書」、「事前研修会助成金申請書」の提出を受けて、年1回に限り教区事前研修会についての開催助成金をお渡しします。その際、必ず印鑑をご持参ください。

派 遣 … 委員1名

- ・ まなびばプログラムに準じた開催のみ、派遣を行います。
- ・ 委員1名の他にトレーナーが必要な場合はスタッフ若干名を派遣します。
- ・ 派遣にかかる交通費は本部学生担当委員会にて負担します。

※その他のプログラムの派遣についてはご相談ください。

CHAPTER. 4 おはなしガイドライン

■講師について

講師は「まなびば」の参加者と同じ空気、雰囲気を感じながら「おはなし」をつとめていただきたいと思います。「おはなし」の時間のみに講師がやって来る形では、プログラムの流れに沿った話にならず、浮き上がってしまうことになると思います。

「まなびば」では、「おはなし」の内容を心に治め、実践につなげてもらうことをねらいとします。講師の方には、プログラムの様子をしっかり見ておいていただくことが大切です。

■講師へのヒント

高校生に「おはなし」をしていただくにあたっての留意点をいくつか列挙しておきます。ここでの例はあくまでも参考です。大事なことは、話す側が、お道の素晴らしさを何としても伝えたいという気持ちを強く持って、話をするということです。

◇高校生に対して、臆することなく熱を込めて自身の信仰を語る

今時の高校生に話をするとなると、時として遠慮がちになるものです。しかし、ここでは遠慮せずに、自身の信仰をそのまま高校生にぶつけてみてください。話し手の熱意や真剣さは必ず高校生に伝わります。

◇おはなしの導入、また途中で高校生が興味を示すような話を入れる

高校生に話をするとなったとき、寝てしまうのではないかと、雑談をするのではないかと、いった不安が頭をよぎることがあります。そういうときには、本題から多少ずれても、高校生にとって興味深い話を話の初めや途中に入れてみるのも効果的です。そういった話で彼らの興味を引きながら本筋の話を伝えます。

◇この言葉は対象者（高校生）にとって理解できるか、自問してから話す

「おはなし」となると、つい教語ばかりを使い、話を組み立ててしまいます。対象者によってはそれで良いのですが、その場にいる者の信仰の度合いを充分に考慮した上で話をしないと、聞き手が消化不良をおこすこともあります。聞き手の信仰の度合いを確かめつつ、できるだけ平易な言葉で話すことも大切です。

◇**教理の説明だけではなく、具体例・実践例を添える**

「おはなし」には、教理の正確な説明が欠かせません。しかし、四角四面な話で終始してしまうようでは、聞き手である高校生が「なるほど。そういうことか」と納得することができなくなってしまいます。時には講師の体験を通しての具体例・実践例を語ってください。それによって聞き手の理解度は深まります。

◇**平坦な話にならないために、途中で「質問」を投げ掛けてみるのも効果的**

「おはなし」の時間は約 20 分で、高校生はその間ずっと話の聞き手にまわります。「おはなし」の時間中、高校生の意識を「おはなし」に集中させることができれば問題はないのですが、「心ここにあらず」という様子が何人かに見受けられた場合、「これについてどう思いますか？」などといった形で、話の途中で質問を投げかけてみることもよいでしょう。そうすることで話にメリハリが付き、聞き手の集中力を持続させることができます。

◇**内容を盛りだくさんにするより、重点を決めて話を絞り込む**

「おはなし」をするとなると、「あれも話したい。これも伝えたい」と、少ない時間の中で話の内容が多岐にわたってしまうことがあります。それよりも「今日はこの点を伝えるんだ」というように要点を絞って話を組み立てた方が聞き手の印象に強く残ります。

◇**円になって座る**

大人数でない場合、講師も含めて円になった状態でおはなしを進めると、対面式に比べ、打ち解けた雰囲気の中で「おはなし」の時間が持てるものと思います。但し、その場合、輪が大きくなり過ぎないように気をつけてください。

CHAPTER. 5 おてふりガイドライン

- ◇参加者の中には、おてふりどころか礼拝の仕方さえ知らない高校生もいます。まずは、どこまでおてふりができるのかを全員に確認してから始めてください。参加者の状況によっては「よろづよ八首」などのてをどりや、鳴物練習に変更しても良いでしょう。

- ◇高校生の年代は、「なぜおつとめをするのか」ということに漠然とした疑問を抱えている場合も多いものです。おてふりの練習のみに留まらず、こうした疑問を引き出し応えていく中で、より深くおつとめの大切さ、お道の教を伝えていくことができます。

- ◇おつとめは「命いのちの切きりかえ換」をするものとして教祖がお教えくださり、ご自身の定命を25年お縮めになってまでお急き込みくださった大切なものです。練習とはいえ、終始真剣にとめるよう徹底してください。
尚、おてふり練習の内容については『おてふり概要』を参考にして行ってください。

- ◇「おてふり練習」などの修練は、1人の講師によって行う以外にも各部屋に分かれて複数のスタッフで実施するという方法もあります。

CHAPTER. 6 『まなびば』 Q & A

Q：参加者が少ない場合でもプログラムは進められますか？（例えば2～3人など）1班体制でもいいでしょうか？

A：大丈夫です。受講者2～3人くらいでも、スタッフを混ぜ5～6人の班にして実施してください。

Q：プログラムを行いたいけれど、参加者が遠くから来るなど、土地がらプログラム通りに進められない場合はエクササイズをずらしたり、日をまたいでもいいでしょうか？

A：一つのエクササイズ・アクティビティを日をまたぎ分割して行うことは避けてください。

A：遠方の参加者が多く、集合が遅れることが分かっているならばエクササイズをずらして実施しても構いません。（例えば、1日目にグループタイム①だけを実施し、2日目にグループタイム②以降を実施するなど。但し、解散時間は遅くなります）

Q：高校に通っていない16歳～18歳の人は「まなびば」に参加してもいいでしょうか？

A：教区の判断にお任せします。

Q：遅刻参加の学生をどのように扱ったらいいでしょうか？

A：学生を班に入れる前にトレーナー以外のスタッフが、現在の進行状況などを簡単に説明したり、一緒にお茶を飲んで談笑するなどして少し気持ちをほぐしてから合流させると良いでしょう。（到着してすぐにトレーナーに任せない方が良いでしょう）

Q：「まなびば」の2日目がダラダラしてしまいます。対応策はありませんか？

A：前夜の夜更かしが原因である場合もあります。早く寝かす工夫を考えるとよいでしょう。

A：2日目のエクササイズ・アクティビティの合間に、積極的に受講者に話しかけてコミュニケーションをとり、意欲を高めてあげることも有効です。

Q：ウォーミングアップ、アイスブレイクの進め方が苦手なので、コツがあったら教えてください。

A：とにかく自分が楽しんでください。

- ・ウォーミングアップでは、まず自分を昂揚させます。そのためにBGMを用意します。できれば高校生の興味を引くために流行の曲を用意した方が良いでしょう。
- ・ネタは予定時間分より多めに準備して、状況により取捨選択すると良いでしょう。

- ・ウォーミングアップやアイスブレイクは班がのっているうちにやめて、エクササイズ・アクティビティに移って下さい。峠を越えてからエクササイズに入るとだらけてしまうおそれがあります。
- ・屋外プログラムを中心に進める場合のウォーミングアップは、参加者が周囲の自然や他の参加者に馴染むことを目的としていますので、人工的なBGMは使用しません。深呼吸や周囲の音を聴くなど、周りの自然に目を向けてもらうのもよいウォーミングアップとなります。

Q：トレーナーが「おはなし」の講師をしてもいいのでしょうか？

A：人がいない場合、トレーナーがしても良いでしょう。しかし、できるだけトレーナー以外のスタッフにつとめていただく方が良いと思います。但し、外部から「おはなし」の時間だけに講師を呼ぶことは避けてください。

Q：ふりかえりの必要性(意味合い)について教えてください。

A：ふりかえりは、エクササイズ・アクティビティの仕上げの時間と言えます。ねらいをより確実に治めるための大切な時間です。時間がないからと端折ることなく確実に実施していただきたいと思います。

Q：トレーナーはエクササイズ・アクティビティごとにメインとサブが交代してもいいですか？

- A：各教区の判断にお任せします。トレーナーを固定するのか交代制にするのかは、どちらも一長一短があると言えます。しっかり相談をして決定してください。
- ・トレーナーを固定するとトレーナーのグループへの関わり方に一貫性が生じ、安定した雰囲気ですぐに日程を進められ、グループもまとまりやすくなるでしょう。但しトレーナーが不慣れな場合、逆に不安定な状況が続きグループがまとまりにくくなることも考えられます。
 - ・交代制のメリットはトレーナーの負担が軽減されることで、メンバーに対してきめ細かい気配りができるようになります。また、多くのスタッフにトレーナー経験の場を提供できる利点も挙げられます。しかし、経験豊富なトレーナーにメンバーからの会話が集中したり、トレーナーが交代し一貫性に欠けるとグループがまとまりにくくなることもあります。

Q：大学生はトレーナーをつとめてもいいのでしょうか？

A：メインではなく補佐的立場でつとめていただくのが理想的です。

Q：トレーナー、受講生の服装、携帯電話の使用はどうしたらいいでしょうか？

A：服装に関してはトレーナーも受講生も限定していません。

A：携帯電話はエクササイズ・アクティビティの進行に支障をきたし、集中もできなくなるので、トレーナーも受講生もエクササイズ・アクティビティ中は使用しないようにして下さい。

A：トレーナーは携帯を時計代わりに使用しないよう、あらかじめ腕時計を用意するか部屋に掛け時計を用意してください。

Q：机は使ってもいいでしょうか？

A：使っていただいて問題ありません。ただし、机が弊害となり学生間に距離ができてしまう使い方は避けてください。

